

## 静岡県原子力県民講座（平成 27 年度第 2 回）

### 質疑応答録

- ・出席者の方々からの質問事項と西本先生からの回答をまとめました。
- ・時間の関係で当日お答えできなかった質問に対しても、後日、回答をいただきました。（回答は、講演テーマに関するものに限りします。）

#### 【「福島浜通りの復興と地域づくり活動」～東日本大震災と原発事故を乗り越えて～】

No.	質問	回答
1	国道 6 号に桜を植えようの話は聞きましたが、桜を主張した子が津波で流されたと聞きましたが、国道に桜を植える活動は津波後ではないのですか。	津波の震災の前の年です。約 3 年前の年から始めていました。震災があったから、大人はやめようと思ったんですけども、そこで先輩から後輩に引き継いでいった子供たちが残っていたものですから、「先輩が残した桜を植えなくちゃいけない」ということで、植えようと思ったんです。けれども、植える場所が津波でなくなったものですから、それで「国道に植えましょう」ということになりました。桜を植える場所は、本当は国道じゃなくて、子供たちが考えていたのは、県道に植える予定でした。
2	ゴミ拾い等の活動中に体調を崩される方などはないのでしょうか。	体調は誰も崩していません。それはきっと、線量のこととか、暑かったので日射病とかって心配していると思いますけれども、全くそういうことなく無事に終わりました。その後も、測定した線量計を確認しても、全く何の心配もなくきちっとできました。私たちが思っていた以上に心配なく終わったかなと思っています。
3	原発について賛成でも反対でもないといわれたが、あのような災害が近くにあつてなぜ反対ではないのですか。	私は、なぜ反対しないかという、原発のある地域の皆さんなら多分わかるのではないかなと思います。それは、私の仲間、ハッピーロードの理事や、ハッピーロードの理事の夫や息子が、今も第一原発、第二原発で働いています。そこで生活設計を立てているんです。そういう人たちと一緒にこの活動をしている中で、私たちは「反対だから、あなただめよ」とか「賛成だから、あなた来なさい」とは絶対言えません。震災 1 週間後に、私の 26 歳の子は、「自分のふるさととは自分で守らなきゃいけない」と言って、私たちにも了解を得ないで福島第一原子力発電所に入っていました。「何とか元の姿に戻したい」と言って福島第一原子力発電所に入りました。そういう姿を見て、その当時、1 週間ですからね。福島第一原子力発電所がどんな状態かって、本当に東電の方も

		<p>国の方もわからないけれども、重機を持って入って行きました。そういう姿を見て、私たちは、「私たちの仲間がそこにいる以上は、私は原発に賛成派でも、推進派でも、反対派でも、いるのはやめよう」って心に決めました。そして、その子がその仕事に意気を感じて自分の選択でやっている以上、私はその子を応援してあげたいなって。これは、原発がある地域の方たちは、私と同じような考えの地域のおばちゃんたちはたくさんいると思います。なぜなら、そこで収入を得て、生活して、家族を守っているからです。そこも、私たちのような立場の人もいるということを考えてくださると、反対するときも賛成するときも、ちょっと思いが違うのではないかなと思います。</p>
4	<p>学校、商店、病院の開設と住民の戻りお互いが戻らないから止まっている。公営の商店、病院を早く造れないか。</p>	<p>私が一番願っていることです。</p> <p>私は、震災の2年後にウクライナに行って、「チェルノブイリではどうしたのかな」って、自分の目で確かめてきました。そこにはスラブチッチという町があって、震災後1年8カ月で約1万5,000人の人が住む、とても立派なまちづくりができたんです。最初は3,000人、5,000人の作業員のためにつくったまちづくりだったんですけど、それが余りにも住みやすいもので、一般の人、例えばウクライナで被災した人たちが移り過ごしています。私は、それを見てきたときに、「ああ、私たちもこれが必要だ」と思っています。やっぱり、今5年も過ぎていると、戻りたくても戻れない人。5年違うところで生活して、そこに根っこが生えましたから、戻りたくても戻れない人。戻りたいけど、私がさっき話したように、医療やインフラ整備ですね。子供の学校がないから、戻りたくても戻れない人。そういうことを考えたら、双葉郡8町村、7万5,000人いるけど、私の予測では1、2万人戻ればいいのではないかなって思っています。その1、2万人のために、私は常々コンパクトシティをどこか1カ所に集めて、広域な大きなスーパーだったり、レジャー施設だったり、病院、学校というものをまとめてつくり、雇用を確保する必要があると思っています。</p> <p>今復興庁とか国でやっている復興というのは、私は毎回言っているんですけど、ロボット工場をつくる、さっき見た廃炉施設をつくる、焼却炉をつくる。病院、1人くらいいる、ちっちゃなお医者さんを置く病院をつくる。みんな震災前のように8町村が箱物を欲しがってきている現実があります。だんだん年数が、月日が経っていくと、そういうことが見えてきてきているのが事実なんです。でも、その復興というの</p>

		<p>は、国とか行政が望んでいる自己満足の復興なんです。地域住民に言わせていただくと。 私たちが望むものは、今言ったように、スラブチッチのように、みんなが幸せに、子供の笑顔がいっぱいある、小さくてもいいからそういうまちづくりをして、今除染作業員が1日2万人入っています。1Fと2Fの作業員が1万人います。それで、もう戻らないと決めた人は、人生そういう選択をしたから、そういう人に戻れとは言えないんです、私たちは。だけでも、戻りたいと願っている1万人ぐらいの人と、そういう作業員の人たちが、もしかしたら「双葉郡、いいところだから、家族と一緒に住所を持ってきて住もう」。そういう人たちを受け入れた新しいまちづくりを、私たちはこれからやらなきゃいけないって思っています。そこから収益のあるまちづくりをしなきゃいけないと思います。今楡葉町は、さきほど400人戻っていると言いましたけど、400人のうち300人は日中町にいて、仮設や借り上げに帰ってしまうのです。夜は100人の人たちが自分の家に泊まっています。ですけど、その平均年齢が70歳以上です。そういう人たちが戻ったまちづくりで、まちづくりとは言えないんです。やっぱりさっき言ったように、子供の笑顔がいっぱいあふれた、若い人たちが住所を持ってきて、収益の見込めるまちづくりをしないと、私は本当の意味のまちづくりはできないのではないかなと思っているので、今私の願いは、そういうまちづくりを、これから5年のうちに何とか形にしたいと思っています。</p>
5	<p>帰郷に対する市民の将来の展望と課題について、どのようなまちづくりを目指すのか。</p>	<p>同上</p>
6	<p>原子力発電所の廃炉問題、中間処理、最終処理問題が解決できなければ復興復帰はできないのではないかな。</p>	<p>行政の人間じゃなくて、住民として、普通のおばちゃんの人として答えさせていただきたいと思います。</p> <p>まず私が不満なのは、国が最終廃棄物をどうするかという、明確な、「いつ、どこまでどうやります」ということを言っていないこと。これは、私たち福島県、特に私たちのような被災者にははっきり伝えるべきではないかなと思います。なぜなら、戻るにしても、生活設計って1、2年でできませんよね。「5年後に戻ろう」とか、「そう言うんなら10年後に戻ろう」という段取りをしますよね。だから私は、いつも国に、「そういう数値を国なり東電にはっきり出してください」ということを言っています。あとは中間貯蔵施設。これはいろんな問題があります。うちの理事たちの中にも、双葉郡なので、中</p>

		<p>間貯蔵施設の中に土地を持っている人たちがたくさんいます。でも、ここで1つ問題なのは、つくことは決まったけど、環境省があそこの土地の持ち主に未だに交渉に行っていないところが大半なのです。双葉の町にして、やっと50人くらいなのです。そういう中で中間貯蔵を今つくるということは、やっぱり土地があって初めてできるものなので、そこはかなり先に、住民としてはまだまだ難しいものがあるんじゃないかなと思いますけれども、行政に言えることは、「何もたもたしているのよ」って。「5年もあるんだから何とかしなさいよ」って、あえて言わせていただきたいかなって思っています。</p>
7	<p>子供達を参加させるために、市や県の教育委員会に相談したのか。どのような方法で子供達が参加できる仕組みをつくったのか。</p>	<p>教育委員会等への相談はありませんでした。なぜならば、私は「交通安全母の会」という会を通じて、子供たちに交通指導をしていて、そこでこどもたちとお友達になりました。学校とお友達になるんじゃなくて子供と友達になりました。それで、「おばちゃん、次こうしたい、ああしたい」といって意見が出てきて、「じゃ、おばちゃんが、それをやるために学校に行ってあげるね」って学校へ行くと、学校関係者がいたらごめんなさい。私にとっては伏魔殿みたいところで、後ろからぐんぐん髪引っ張る団体なんですよね。でも、「ごみ拾いやる」と言ったときもそうでした。「あなたは圧力団体ですか」って言われました。「私は子供のためには右翼にも左翼にもなります」と言ってきて、子供たちにその旨を正直に話しました。そうしたら子供たち、とっても立派で、「わかった。生徒会の会長同士で電話で連絡とって、私たちがやる」と言って、子供たちが全部学校に回して、生徒会で全員参加。どの学校も参加したもので、勝手に先生がプラスアルファのおまけについてきたんです。子供が動くもんで、「しょうがないな」という感じについてきてしまって、1年目には、ごみ拾いやったとき、子供たちだけで1,500人出て、行政は13市町村あるんですけど、どなたも出てこなかったんです。</p> <p>そこは私、策士なので、マスコミをみんな呼んだんです。「子供たちがこういうことをやっている。応援してあげてください」って。次の年、頼みもしないのに、組長さんやら何やら行政がみんな来て挨拶したかったです。こういう経緯で、子供たちが優先順位一番にしてやっているといろんなおまけがつくということですね。</p>
8	<p>失礼な質問ですが、NPOの資金はどのようにしているのですか。</p>	<p>決算書を見てもらうとわかりますが、資金は全くゼロです。ゼロだけど、やれることが、心意気であるんです。まずサミ</p>

		<p>ットに関しては、最初は全員会員の持ち寄りでした。2年目は、マスコミに出たら、応援する企業が出てきてくれたんです。それだから、私たちは、今度割り勘でお金を出さなくてよかったです。ポスター1枚つくるのにも、みんなお母さんたちで「1枚1人1,000円で出そうね」、「10枚つくったら1万円頂戴」と話をして、お母さんたちがみんな子供たちのことを考えてやっているの、何も苦痛じゃなかったんです。</p> <p>ごみ拾いに関しては、水だったり、軍手だったり、ごみ袋だったり、子供たちが「同じオレンジ色のTシャツを着たい」とかと言ったので、私は一銭もなかったんですけど、沿道の業者全部回りました。「子供たちが、こういうごみ拾いをしたいと言っているけど、大人が何かすべきことがありますよね。どうでしょうか」、「じゃ、うちは人を出せないけどお金を出そう」とか、「お金はないけど、お水なら会社にあるからお水を出そう」とか。そういうことで、お金はないけど、やり方を変えらとできることがあるということ、皆さんにも知ってほしいかなと思います。</p>
9	批判努力をどのように考えたか。	<p>最初のうちは誠意を持ってすごく真面目に答えていたのです。例えば「うちの前の国道は0.03<math>\mu</math>Sv/hから0.05<math>\mu</math>Sv/hですよ」って写真を送付しても、信じようとしません。だから、そこは価値観の違いであって、「もう人間は十人十色いるから、そこは仕方ないのかな」って、あるときから私は考え方を変えたんです。ただ、「何を言われても子供の安全性だけは私たちはきちっとしておかなきゃいけない」という対応だけは、人一倍尽くしたと思っています。</p>
10	お話は大変感動しました。NPO法人ハッピーロードネット今後大きくするのか、現体制のままでいいのか。	<p>今の段階では、そのつもりです。</p>
11	東日本大震災は明治、昭和8年(1933年)、平成23年(2011年)の3度ありました。西本先生はこれをご存知でしたか。それなりの対策、心構えはお持ちでしたか。	<p>残念な事に私は普通の主婦でしたので行政から発信される事は信じていたので勉強不足でした。</p>
12	今福島では風力発電に力を入れている様なので、その様な自然エネルギーに力をこれから入れた方が良くはないですか。	<p>日本全体のエネルギーが必要な分があるならそれでも良いと思います。</p>
13	原発は、大人が勝手に決めて建設したものだ。高校生のお話を聞いて感激しました。リアス式海岸は風力発電の方が良いと考	<p>建設している所が私の間違えでなければ 福島県ではないと思います。これからたくさん勉強します。</p>

えます。今のところ、どの程度建設が進んでいるのでしょうか。	
-------------------------------	--